

事例研究報告

特別支援学校寄宿舎生が、
お尻を触る行動を減らすための支援

生徒の実態

高等部、男子、自閉症

社会生活年齢 5歳6ヶ月

言語・・・表出 「いやおう(拒否)」「開けてください」「削ってください」

受容 ○○します, 待ちます, 先生といっしょにいけます

好きなこと・・・水遊び, 紙ちぎり, 色えんぴつで絵を書く, ipad

メロディ絵本の音を聞く, 本を見る

苦手なこと・・・偏食

教員の考え

「人のお尻を触る、突然、大きな声を出す、急に走り出す、物を投げる、紙を破る等の行動を減らしたい。」



アドバイザーからの助言

「拮抗する行動を教える(指示に従う)」

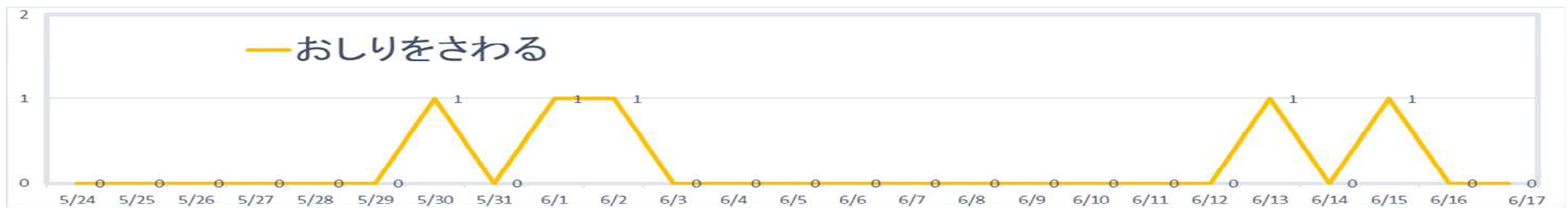
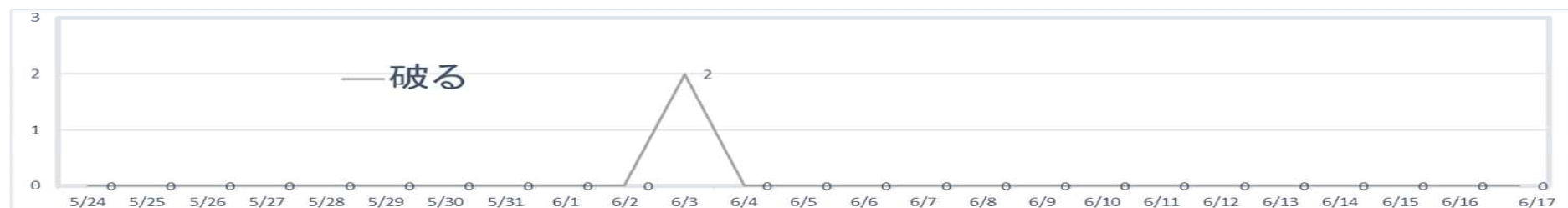
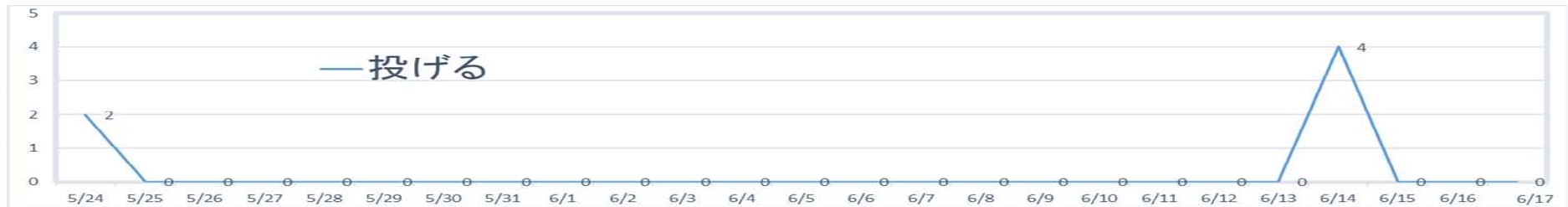
「ひとりで過ごせる余暇活動のバリエーションを増やす」

ことから始めましょう。

なお、指導にあたっては、物理的環境調整を整えましょう。



指導前の記録



指導目標の見直し

「指導員の指示に従い、イスに座ることができる」

指示に従う行動として、「座る→チョコ」の指導を導入した。

- おやつの時間帯に行くことで、本生徒のみという特別感を感じることなく、指導員の指示「座る」に従うとおやつのチョコを得られることを指導することができた。
- 時間帯の幅を広げ、回数を増やして、指導員の指示に従うことを更に強化した。

指導1: 指示に従う(座る→チョコ)練習を行う。

次のような指導計画を立て、時間帯の幅を広げ、回数を増やして、実施しました。

STEP1: 15:00～15:30

担当者3名で指導する

STEP2: 15:00～15:30

男子棟1階指導員で指導する

STEP3: 17:00～

後勤者と宿直者がチョコを携帯する

指導2-1: 課題とipadを行う活動時間を設定する。

次のような指導計画を立て、実施しました。

- STEP1 ひもとおし→ipad(10分程度)
9月1日開始(下校後17:00まで)
- STEP2 プリント+ひもとおし→ipad(20分)
9月28~30日(下校後から17:00まで)
- STEP3 プリント+ひもとおし→ipad(20分)
10月4日~(17:30~18:30まで)
- STEP4 プリント+ひもとおし→ipad(20分)
10月17日~(18:40分~19:20分余暇時間)

指導2-2: 活動内容を設定し、自由に過ごす時間【白の部分】を減らす。

	指導前	指導後
15:00		
16:00		
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		

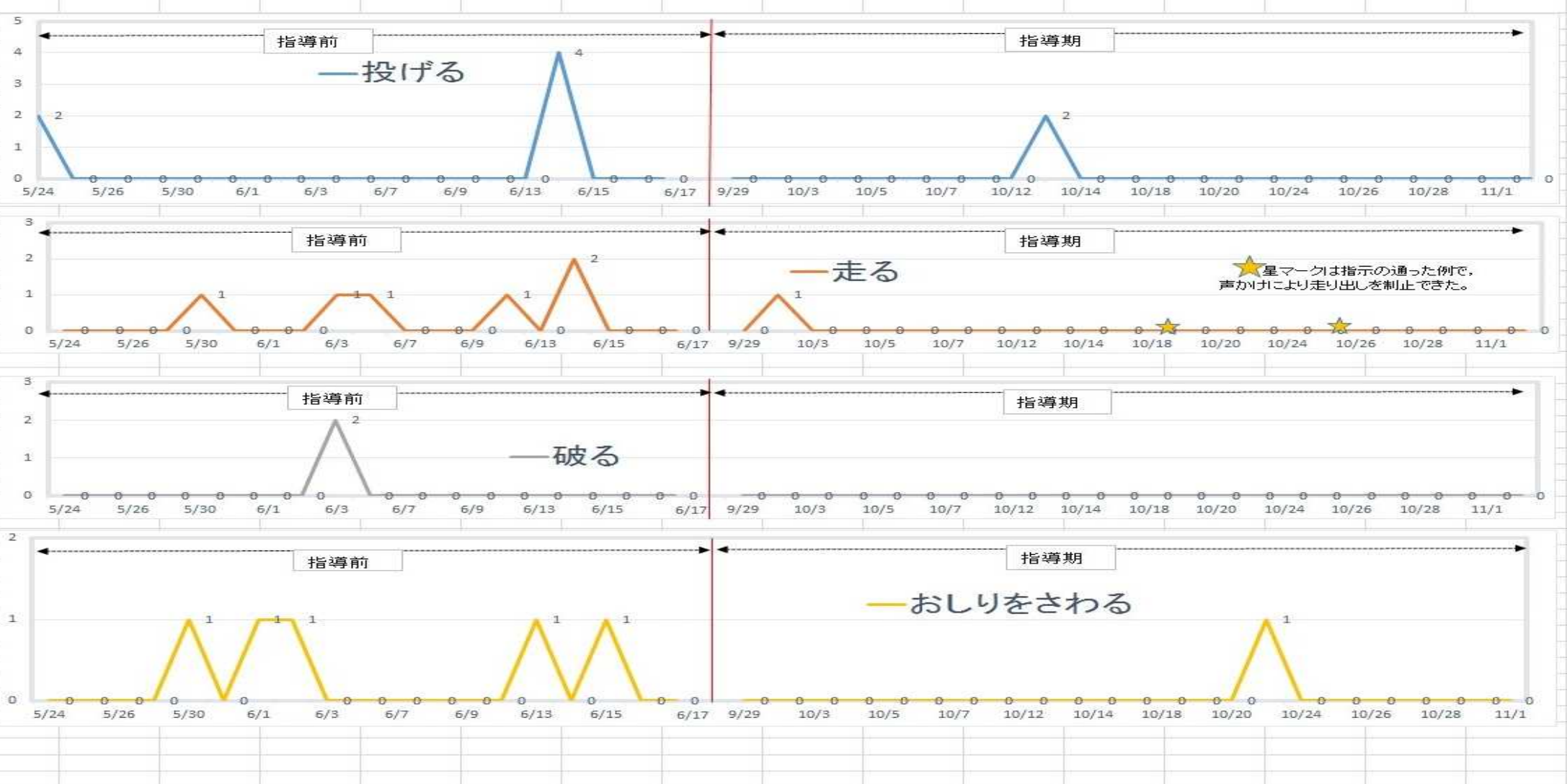
指導1と2を進めるにあたり、物理的環境調整を行った。

次のような環境調整を指導1と指導2を行いながら実施した。

- 紙のパーテーションを、プラスチックに交換したり、破れそうな物は全て片付け、必要な物にはラミネートをして破れない環境に変えた。
→ 注意を受けることが減り、落ち着いて過ごせる時間が増えた。
- 破れるものを極力排除したことで、不安定な要因を減らすことができた。

指導1と2の成果

走り出し寸前の「座る」の声かけにより、座ることができ、走り出しを減らすことにも繋がった。



ここが成功のポイント



- 「問題行動」と「拮抗する行動」に着目して、指示に従う行動を獲得することができた。
- 余暇時間に行う活動(課題, ipad)を設定し、手持ちぶさたの活動を減らすことで問題行動の減少につながった。
- 指導員が共通理解して取り組むことで、良い行動に注目し、賞賛を受けることが増え、落ち着いて過ごす時間が増えた。